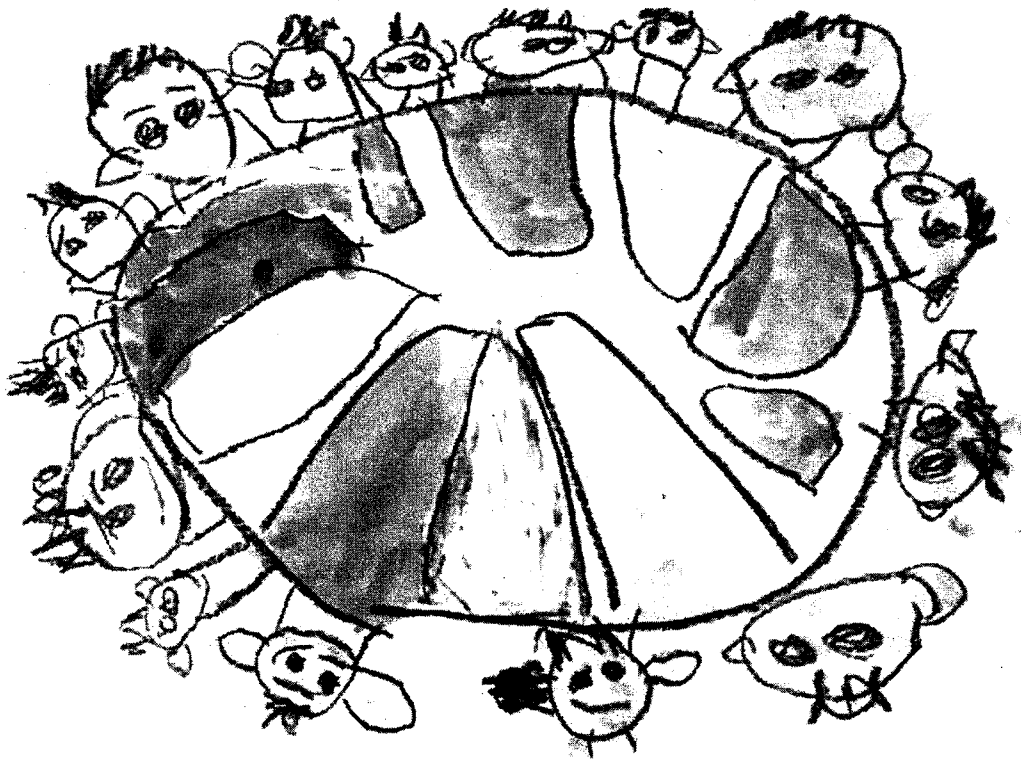


平和に関する意識実態調査



平成28年3月

広島市教育委員会

はじめに

昭和20年(1945年)8月6日、本市は、原子爆弾によって壊滅的な打撃を受け、多くの人命と街を失い、その年の暮れまでに約14万人の尊い命が奪われました。辛うじて生き残った人々も被爆の苦しみを背負うことになりました。こうした中にありながら、平和を願い、平和都市の建設を進めてきた先人のたゆまぬ努力によって、めざましい復興を遂げました。このような歴史を持つ広島市の教育の原点は、「ほかの誰にもこんな思いをさせてはならない」という被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切にし、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を子どもたちの中に育てていくことにあります。

広島市教育委員会では、「ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する」ことを目標として掲げ、平和教育の推進に努めています。特に、前回の調査結果に基づいて2ヶ年かけて、小学校から高等学校までの12年間を見通して、児童生徒の発達段階に即した目標や内容を設定した「平和教育プログラム」を策定しました。この「平和教育プログラム」に基づき、本市独自の「ひろしま平和ノート」を作成し、平成25年度より全市立小・中・高等学校において、計画的・系統的な平和教育を実施しています。

「ひろしま平和ノート」は、各教科等と関連を図りながら、発達段階に応じた目標や内容を設定しており、児童生徒は、被爆当時の広島の様子や復興の歩み、平和な世界を実現するための広島の役割などについて学習します。

また、各学校においては、体験を通して被爆の実相に触れるため、平和記念資料館の見学や平和を考える集いの実施など、各学校や地域の実態に応じた平和教育の充実に努めています。

この度実施した「平和に関する意識実態調査」は、広島市の子どもたちの平和に関する意識実態や変化を把握し、被爆体験を原点とした広島市の平和教育を充実するための資料を得るために、平成7年度から5年ごとに実施しているものです。

今回の調査は、市立の小学校第4学年から高等学校第3学年までの児童生徒約4,400人を対象とした調査と、全市立幼稚園、小・中・高等学校及び中等教育学校、特別支援学校を対象とした調査を実施し、取組の成果を検証することで、今後の平和教育の在り方について検討していきたいと考えています。

この調査にご協力いただきました関係小・中・高等学校の児童生徒、市立学校の教職員及び関係者の皆様方に対して、深く感謝申し上げます。

平成28年3月

目次

I 調査の概要

- 1 調査の目的等 1
- 2 調査の内容と方法 1
 - (1) 調査Ⅰ「平和教育に関する調査」(児童生徒質問紙調査)について 1
 - (2) 調査Ⅱ「学校における取組の状況調査」(学校質問紙調査)について 2

II 調査の結果・考察等

- 1 調査Ⅰ「平和教育に関する調査」(児童生徒質問紙調査)について 3
 - (1) 知識・理解について(問1・問2・問3) 3
 - ア 原子爆弾の投下に関する知識・理解の正答率 3
 - イ 経年変化 4
 - (2) 学習経験について(問4) 5
 - ア 学習経験について 5
 - イ 経年変化 6
 - ウ 学習教材について 7
 - エ 見学した場所について 8
 - (3) 関心・意欲について(問5) 9
 - (4) 学習効果について(問6) 11
 - ア 平和学習を通して知ったり、考えたりしたこと 11
- 2 調査Ⅱ「学校における取組の状況調査」(学校質問紙調査)について
 - (1) 平和教育における学習場面の設定 12
 - (2) 平和教育に関する取組 13
 - (3) 学校敷地内の被爆関連の施設等 13

III まとめとこれからの平和教育の展望 14

IV 資料編

- 資料1 調査Ⅰ「平和教育に関する調査」 16
- 資料2 調査Ⅱ「学校における取組の状況調査」 22
- 調査協力校一覧 23

I 調査の概要

1 調査の目的等

広島市の子どもの平和に関する意識実態や変化を把握し、被爆体験を原点とした広島市の平和教育を充実するための資料を得るために、平成7年度から小・中学校において5年ごとに調査を実施し、高等学校においては平成22年度より実施したものである。

2 調査の内容と方法

(1) 調査 I 「平和教育に関する調査」(児童生徒質問紙調査) について

※ 資料1参照

① 内容

観 点	質 問 事 項	設問番号
知識・理解	広島への原子爆弾投下年月日時	問1(1)
	広島への被爆死者数	問1(2)
	長崎への原子爆弾投下の事実	問2(1)(2)
	長崎への原子爆弾投下年月日時	問2(3)
	非核三原則	問3
学習経験	教わった人	問4(1)
	教材・情報源	問4(2)(3)
関心・意欲	平和な社会をつくるために(意識)	問5
	平和な社会をつくるために(行動化)	問5
学習効果	平和学習を通して学んだこと等	問6

注) 設問は多肢選択方式

② 実施時期 平成27年11月

③ 調査対象者及び実施方法

校 種	小学校	中学校	高等学校
対象学年	第4～6学年	第1～3学年	第1～3学年
実施人数	2,099人	1,468人	784人
実施方法	広島市立小学校(全141校)の中から、24校を抽出し、各学年1クラスで実施。	広島市立中学校(全64校)の中から、16校を抽出し、各学年1クラスで実施。	広島市立高等学校(全8校)、各学年1クラスで実施。
分析対象 (有効回答率)	2,091人 (99.6%)	1,457人 (99.3%)	777人 (99.1%)

(2) 調査Ⅱ「学校における取組の状況調査」(学校質問紙調査)について

※ 資料2参照

① 内容

- ・ 平和教育の実施にあたりどのような学習場面を設定したか (問1)
- ・ 平和教育に関する取組 (問2)
- ・ 学校敷地内の被爆関連の施設等 (問3)

② 実施時期 平成27年11月～12月

③ 調査対象等

全市立幼稚園、小・中・高等学校、広島中等教育学校、広島特別支援学校

校種	幼稚園	小学校	中学校	中等教育学校	高等学校	特別支援学校
分析対象 (有効回答率)	19園 (100%)	141校 (100%)	64校 (100%)	1校 (100%)	8校 (100%)	1校 (100%)

II 調査の結果・考察等

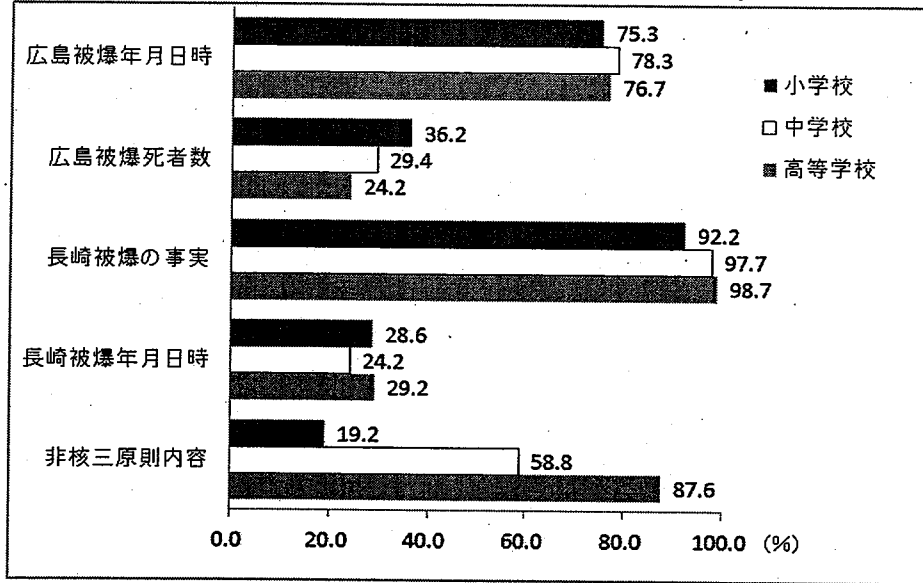
1 調査I「平和教育に関する調査」(児童生徒質問紙調査)について

(1) 知識・理解について(問1・問2・問3)

ア 原子爆弾の投下に関する知識・理解の正答率

○ 各設問の正答率を学校種別にグラフに表した。

図1 原子爆弾の投下に関する知識・理解の正答率



【結果】

広島市の被爆年月日時(1945(昭和20)年8月6日8時15分)の正答率は、小学校が75.3%、中学校は78.3%、高等学校は76.7%でした。

広島市の被爆死者数(その年の12月末までで約14万人)の正答率は、小学校が36.2%、中学校が29.4%、高等学校が24.2%でした。

長崎市の被爆の事実の正答率は、小学校92.2%、中学校97.7%、高等学校98.7%と、ともに高い数値を表しました。また、長崎市の被爆年月日時(1945(昭和20)年8月9日11時2分)の正答率は、小学校28.6%、中学校24.2%、高等学校29.2%でした。

非核三原則の内容についての正答率は、小学校では19.2%、中学校58.8%、高等学校87.6%でした。

【参考】図2 広島被爆年月日時の回答の内訳

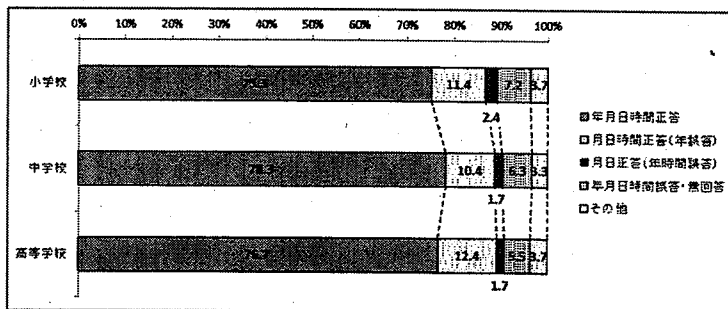
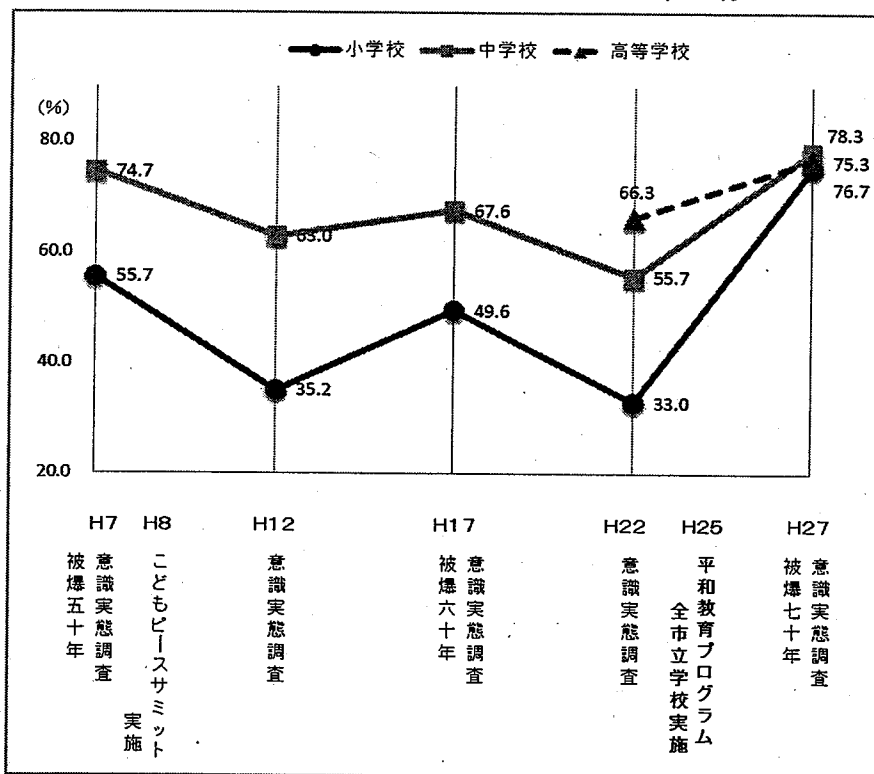


図2によると、広島市の被爆年月日時を正答できた児童生徒と年月日時(8月6日8時15分)を答えることができた児童生徒を合わせると、小学校86.7%、中学校88.7%、高等学校89.1%となります。

イ 広島市への原子爆弾投下年月日時正答率の経年変化

○ 広島市への原子爆弾投下年月日時時の正答率の経年変化をグラフに表した。

図3 広島市への原子爆弾投下年月日時正答率
1945（昭和20）年8月6日8時15分



【考察】

(広島市被爆年月日時、被爆死者数について)

図1及び図3によると、それぞれの項目における正答率が過去の調査結果を上回っています。このことから、平成25年度より実施している「平和教育プログラム」による学習や、各学校における平和を考える集いなどの学校の実態に応じた取組の成果であると考えられます。

特に広島市の被爆年月日時については、「ひろしま平和ノート」において、「1945（昭和20）年8月6日8時15分」を繰り返し学習できるような工夫を行っており、知識・理解の定着につながったと考えられます。

(長崎市被爆の事実、長崎市被爆年月日時について)

長崎市の被爆の事実についての認識は高いことがわかったものの、被爆年月日時についての知識は正答率が30%未満であり、平和学習を行う際、被爆をした都市として長崎市の被爆の実相についても扱う必要があると考えます。

(非核三原則内容について)

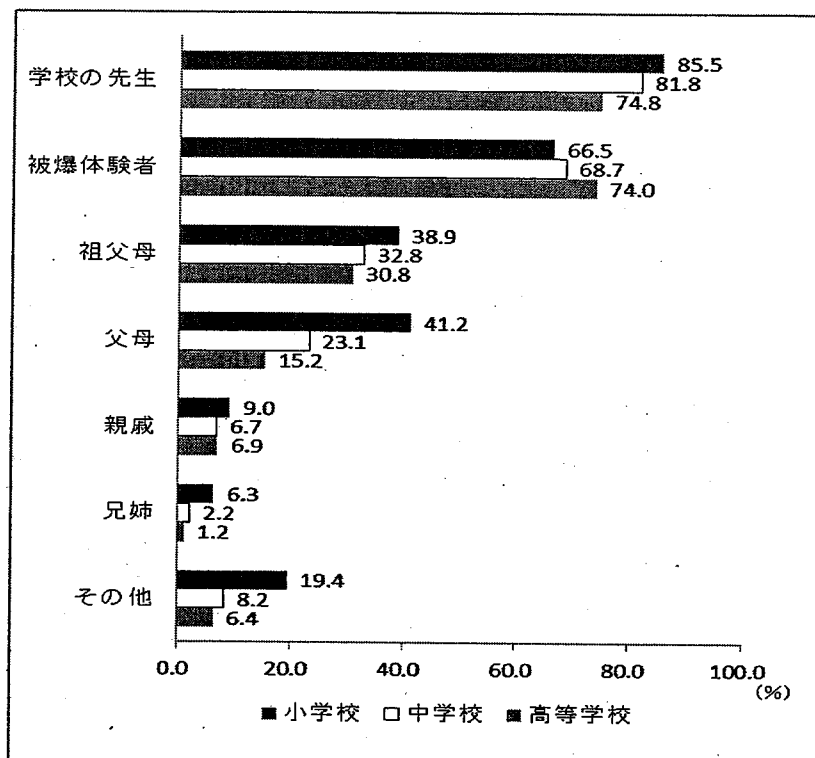
非核三原則の内容「持たず、つぐらず、持ち込ませず」については、小学校では調査の実施時期が非核三原則を学習する前であったため、正答率が低かったものの、社会科を中心とした学習指導により、校種が上がることに理解が定着していくものと考えられます。

(2) 学習経験について (問4)

ア 学習経験について

- 原子爆弾や戦争のことを誰から教わったかについて、複数回答における選択率を学校種別にグラフに表した。

図4 原子爆弾や戦争について教わった人



【結果】

原子爆弾や戦争について教わった人については、小・中・高等学校を通して「学校の先生」が一番多く（小学校 85.5%、中学校 81.8%、高等学校 74.8%）、次いで「被爆体験者」（小学校 66.5%、中学校 68.7%、高等学校 74.0%）、「祖父母」（小学校 38.9%、中学校 32.8%、高等学校 30.8%）、父母（小学校 41.2%、中学校 23.1%、高等学校 15.2%）となっています。

【考察】

図4によると、原子爆弾や戦争について教わった人は、「学校の先生」「被爆体験者」から高い割合を示しています。このことから、平和教育を推進する上で、学校の教員が担う役割の重要性が分かるとともに、児童生徒にとって「被爆体験者」から直接、被爆の実相や平和への思いを聴くことは大きな意味をもつことが分かります。

また、小学校において「父母」の割合が、中・高等学校と比べて高いことについては、学習したことを家庭で話す機会があると考えられます。各学校においては、引き続き、家庭や地域にむけて、集会や平和学習の取組の様子を積極的に伝えていく工夫が望まれます。

イ 学習経験の経年変化

- 原子爆弾や戦争のことを誰から教わったかについて、項目ごとの回答率の経年変化をグラフに表した。

図5 学校の先生から

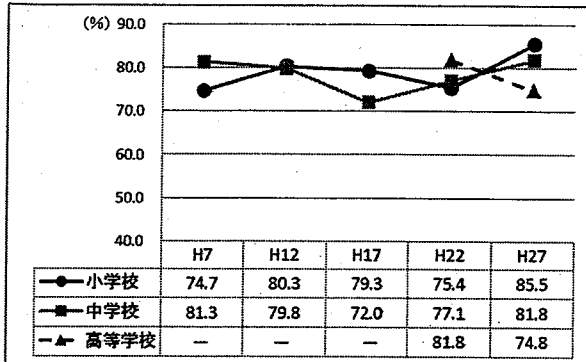


図6 被爆体験者から

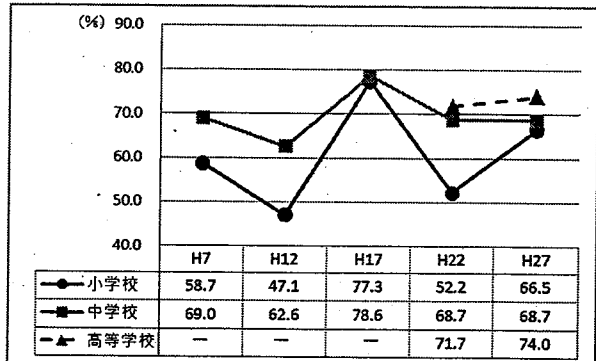


図7 祖父母から

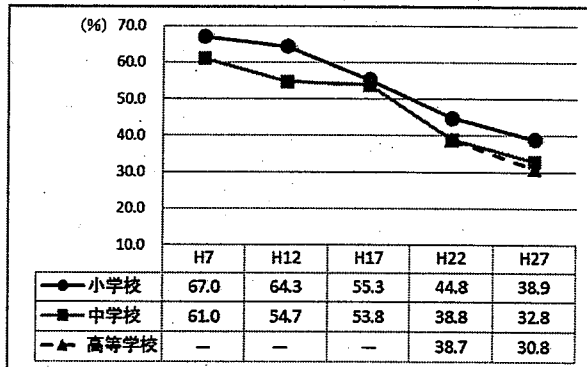
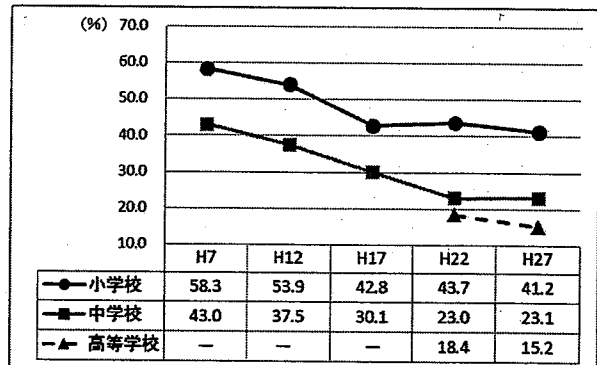


図8 父母から



【考察】

図5によると、小・中学校において、原子爆弾や戦争のことについて「学校の先生」から教わったという割合がこれまでの調査の中で最も高くなっています。一方、高等学校については前回調査よりも低い数値になっていますが、高等学校の「ひろしま平和ノート」の学習内容が、生徒が主体的に平和とは何かを調べ、整理し、発信する活動になっていることも一因であると考えられます。

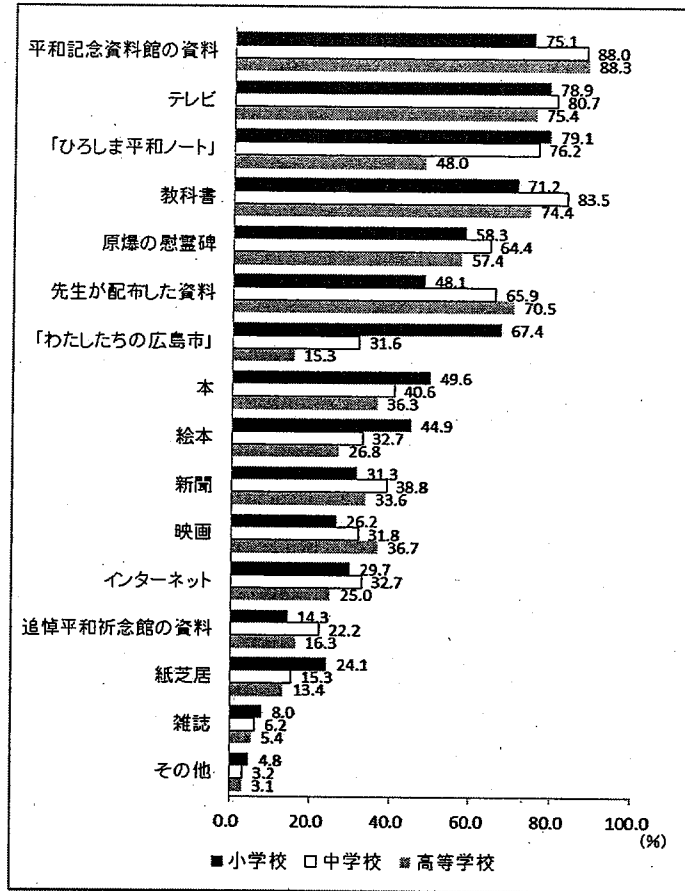
図6によると、「被爆体験者」から教わった割合が一定の割合を示しています。このことから、高齢化に伴い被爆体験者が減少している現在、各学校において計画的に「被爆体験を聴く会」等を設定していることがうかがえます。被爆体験者の生の声を聴く最後の世代であるといわれる現在の児童生徒にとって、各学校において被爆体験を聴く時間を設定するということは、被爆体験の継承に大きな意味をもつこととなります。

また、図7・8によると、「祖父母」「父母」から原子爆弾や戦争のことを教わる経験も少なくなっており、今後は、被爆体験者の話と合わせて、被爆体験伝承者の活用や絵本の読み聞かせや平和教育アーカイブス、地域人材等の活用など、取組を工夫していく必要があります。

ウ 学習教材について

- 原子爆弾や戦争のことを何から見たり聞いたりしたかについて、複数回答における選択率を学校種別にグラフに表した。

図9 原子爆弾や戦争についての学習素材・情報源



【結果】

原子爆弾や戦争についての学習教材・情報源については、小学校では、今回の調査から新たに加わった「ひろしま平和ノート」が79.1%と最も高く、次いで「テレビ」(78.9%)、「平和記念資料館の資料」(75.1%)となっています。中学校では、「平和記念資料館の資料」が88.0%と最も高く、次いで「教科書」(83.5%)、「テレビ」(80.7%)となっています。高等学校は、「平和記念資料館の資料」の88.3%が最も高く、次いで「テレビ」(75.4%)、「教科書」(74.4%)となっています。

【考察】

図9によると、各校種とも原子爆弾や戦争についての情報源としては「平和記念資料館の資料」、「テレビ」が高い割合を示しています。このことから、「平和記念資料館の資料」、「テレビ」が児童生徒にとって平和学習の情報を得る資料として大きな役割を果たしているといえます。

また、小学校では、「ひろしま平和ノート」と回答した割合が高くなっています。このことから、各学校において「ひろしま平和ノート」が積極的に活用されていることがわかります。

中・高等学校では、「教科書」と回答した割合が高く、教科等との関連の中で平和教育を行っていることがうかがえます。

エ 見学した場所について

- 原子爆弾や戦争にかかわる施設の見学について、複数回答における選択率を学校種別にグラフに表した。

図10 平和学習で見学した場所

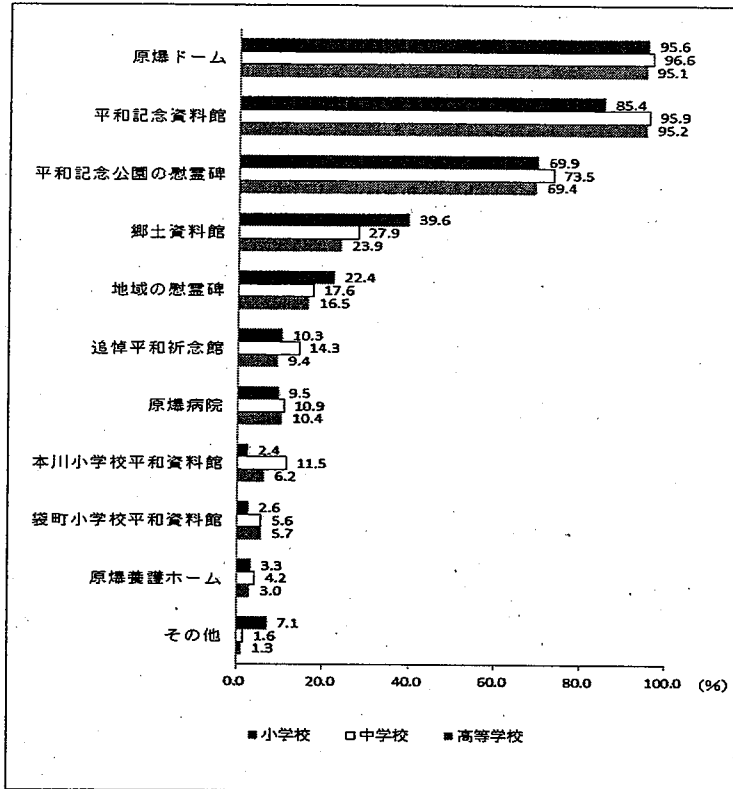
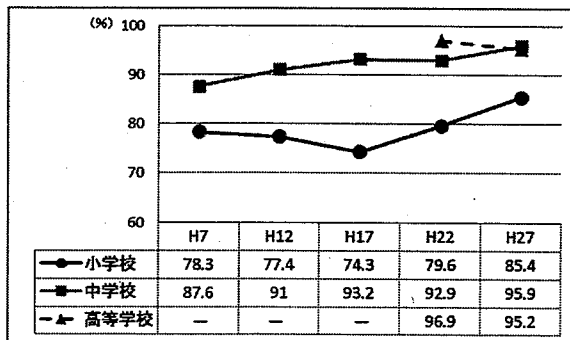


図11 平和記念資料館の経年変化



【結果】

平和学習で見学した場所については、小・中・高等学校を通して「原爆ドーム」が全体平均 95.8%と最も高く、次いで「平和記念資料館」(全体平均 92.2%)、「平和記念公園の慰霊碑」(全体平均 70.9%)となっています。

【考察】

図10によると、見学した場所については、平和記念公園内にある、原爆ドーム、平和記念資料館、慰霊碑が高い割合を示しています。このことから、関連施設が多くある平和記念公園は、平和学習を行うにあたっての見学場所として重要な場所であるといえます。

図11によると、平和学習で見学した場所については、平和記念資料館が全校種を通して高い割合を示しています。このことから、平和記念資料館が被爆の実相から復興までを総合的に学習する施設として大きな役割を担っていると考えられます。

(3) 関心・意欲について (問5)

○ 平和な社会をつくるための15の項目について、「大切だと思う (意識)」 「してみたい (行動化)」 それぞれの回答を下記のように点数化し、平均値を学校種別にグラフに表した。

<p>「大切だと思う」</p> <p>4点 大切だと思う</p> <p>3点 まあまあ大切だと思う</p> <p>2点 あまり大切だとは思わない</p> <p>1点 大切だとは思わない</p>	<p>「してみたい」</p> <p>4点 大切だと思う</p> <p>3点 まあまあ大切だと思う</p> <p>2点 あまり大切だとは思わない</p> <p>1点 大切だとは思わない</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

図12 平和な社会をつくるために大切だと思うこと

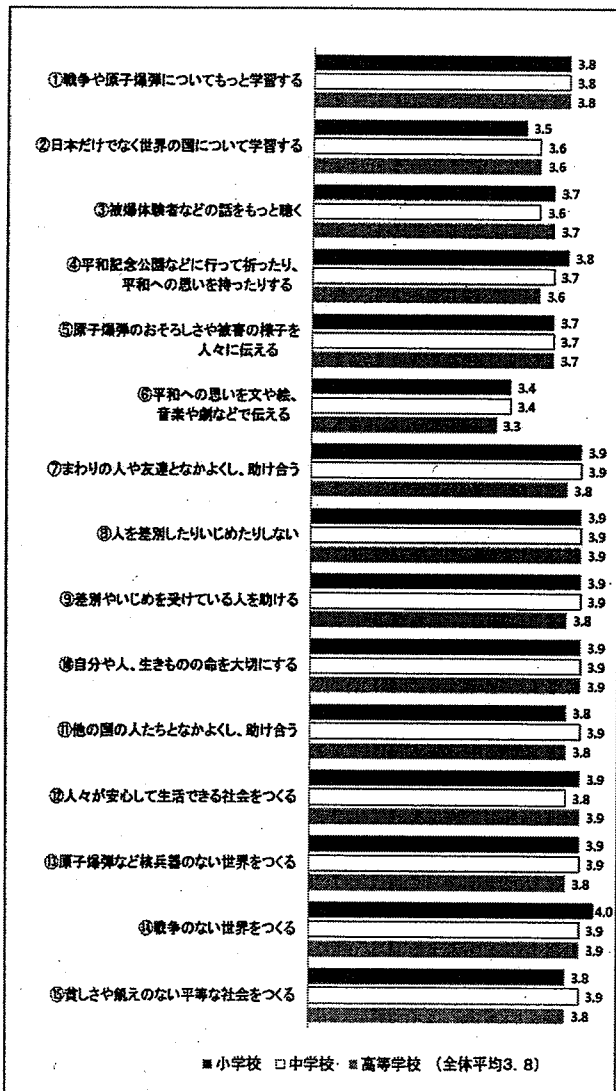
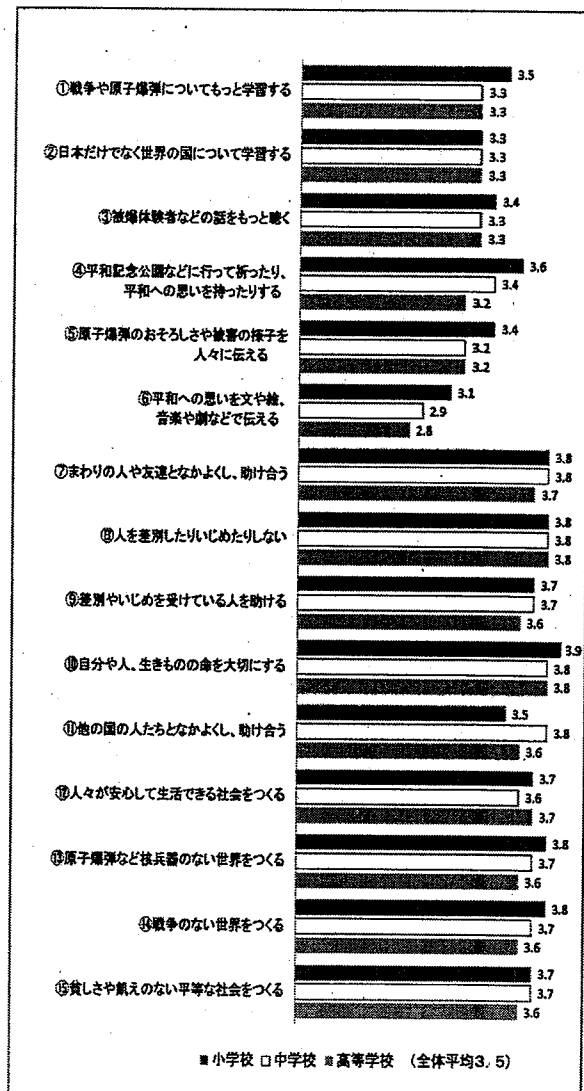


図13 平和な社会をつくるためにしてみたいこと



○ 平和な社会をつくるための15の項目を下記の4つのカテゴリーに分類した。

図14 カテゴリー

カテゴリー	項目
学 習	①戦争や原子爆弾についてもっと学習する ②日本だけでなく世界の国について学習する ③被爆体験者などの話をもっと聴く
表 現	④平和記念公園などに行って祈ったり、平和への思いを持ったりする ⑤原子爆弾のおそろしさや被害の様子を人々に伝える ⑥平和への思いを文や絵、音楽や劇などで伝える
人とのかかわり	⑦まわりの人や友達となかよくし、助け合う ⑧人を差別したりいじめたりしない ⑨差別やいじめを受けている人を助ける ⑩自分や人、生きものの命を大切にする
世界とのかかわり	⑪他の国の人たちとなかよくし、助け合う ⑫人々が安心して生活できる社会をつくる ⑬原子爆弾などの核兵器のない世界をつくる ⑭戦争のない世界をつくる ⑮貧しさや飢えのない平等な社会をつくる

【結果】

小・中・高等学校を通して「⑩自分や人、生きものの命を大切にする」「⑧人を差別したりいじめたりしない」「⑭戦争のない世界をつくる」の項目については意識も行動化も高い数値を示しています。

平和な社会をつくるために大切なこと・してみたいことについては、小・中・高等学校の「大切だと思う（意識）」の全体平均が3.8点、「してみたい（行動化）」の全体平均が3.5点となっているように、意識も行動化も3点以上の数値を示しています。

【考察】

図12・13によると、「人とのかかわり」「世界とのかかわり」のカテゴリーの平均値が高くなっています。このことから、平和教育を通して、相手を思いやり大切にしたりするという「かかわり」の意識が高まっていると考えることができます。

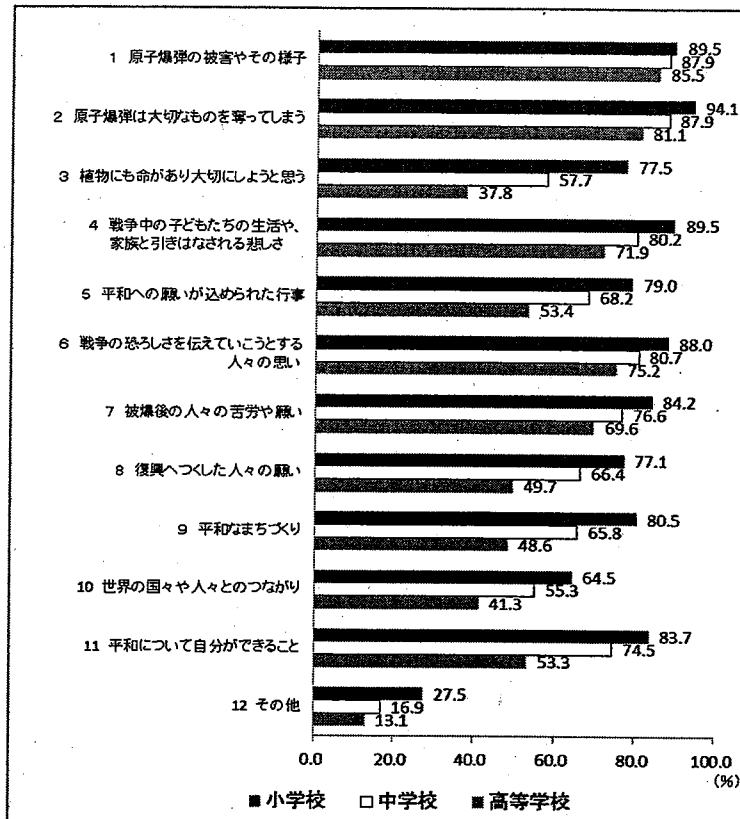
一方、「学習」、「表現」のカテゴリーについては、引き続き指導方法の工夫等を行い、現在の取組を充実させる必要があると考えられます。特に、「⑥平和への思いを文や絵、音楽や劇などで伝える」の項目が、「大切だと思う」「してみたい」ともに他の項目よりも低いことから、学習を行う上での指導の工夫が一層必要になってきます。

(4) 学習効果について（問6）※新規設問

ア 平和学習を通して知ったり、考えたりしたこと

- 1～11の項目は、平和教育プログラムにおける各学年の目標をもとに設定したものである。各設問（複数回答）における選択率を学校種別にグラフに表した。

図15 平和学習を通して知ったこと、考えたこと



【結果】

平和学習を通して知ったり、考えたりしたことについては、小・中・高等学校を通して、「1 原子爆弾の被害やその様子」「2 原子爆弾は大切なものを奪ってしまう」「4 戦争中の子どもたちの生活や、家族と引きはなされる悲しさ」「6 戦争の恐ろしさを伝えていこうとする人々」の項目で高い割合を示しています。

【考察】

図15によると、項目1・2・4・6についてはいずれも高い割合を示しており、「被爆の実相」の学習がおおむね定着していると言えます。今後も、「ひろしま平和ノート」の学習内容や「被爆体験を聴く会」等の平和関連事業との計画的、効果的な関連をもたせる工夫が大切になると考えられます。

一方、校種によって割合にばらつきが見られることから、児童生徒の発達段階に応じた「ひろしま平和ノート」の内容配列の見直しや、世界に視野を広げられる教材の開発が必要であると考えられます。

2 調査Ⅱ「学校における取組の状況調査」(学校質問紙調査)について

(1) 平和教育の実施にあたり、どのような学習場面を設定したか(問1)

○ 各設問における選択率を校種別・学年別に表にした。

【幼稚園】

	実施
被爆体験を聴いたり、見学したりする学習	100%
被爆の実相や復興を理解する学習	32%
平和についての自分の考えをまとめる学習	16%
平和についての自分の考えをもとに 発表したり、意見を交流したりする学習	5%
その他	37%

【小学校】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
被爆体験を聴いたり、見学したりする学習	33%	35%	47%	65%	68%	80%
被爆の実相や復興を理解する学習	63%	70%	79%	87%	89%	92%
平和についての自分の考えをまとめる学習	72%	83%	82%	87%	89%	98%
平和についての自分の考えをもとに 発表したり、意見を交流したりする学習	64%	62%	65%	70%	78%	86%
その他	9%	11%	9%	11%	9%	12%

【中学校・中等教育学校】

	1年	2年	3年
被爆体験を聴いたり、見学したりする学習	48%	41%	33%
被爆の実相や復興を理解する学習	81%	80%	64%
平和についての自分の考えをまとめる学習	78%	80%	78%
平和についての自分の考えをもとに 発表したり、意見を交流したりする学習	38%	36%	44%
その他	11%	13%	11%

【高等学校】

	1年	2年	3年
被爆体験を聴いたり、見学したりする学習	88%	25%	25%
被爆の実相や復興を理解する学習	75%	75%	50%
平和についての自分の考えをまとめる学習	50%	63%	75%
平和についての自分の考えをもとに 発表したり、意見を交流したりする学習	13%	25%	25%
その他	25%	25%	13%

【特別支援学校】

	小学部	中学部	高等部
被爆体験を聴いたり、見学したりする学習	—	—	—
被爆の実相や復興を理解する学習	—	100%	—
平和についての自分の考えをまとめる学習	—	100%	100%
平和についての自分の考えをもとに 発表したり、意見を交流したりする学習	—	—	100%
その他	100%	100%	100%

ア 学年ごとの比較

図16 被爆体験を聴いたり、見学したりする場面の設定

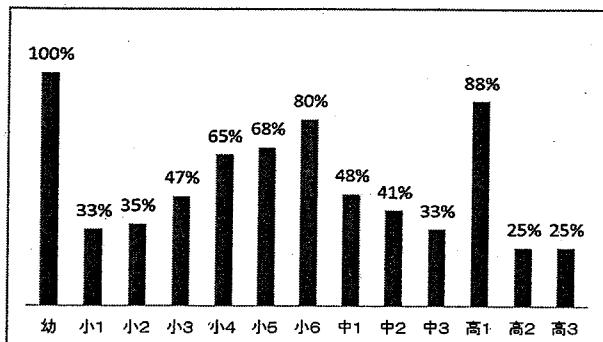
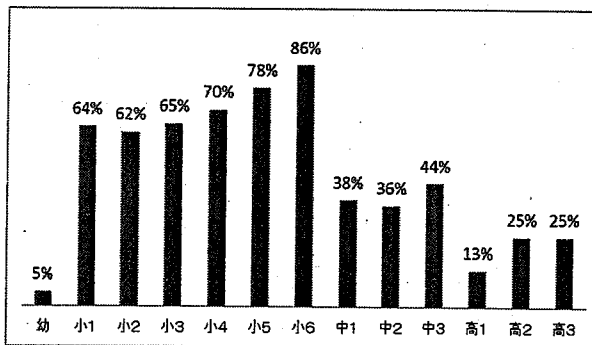


図17 平和についての自分の考えをもとに発表したり、意見を交流したりする学習場面の設定



【考察】

図16によると、幼稚園においては全園で、小学校においては高学年を中心に、高等学校においては、第1学年で、被爆体験を聴いたり、見学したりする学習を行っていることが分かります。

図17によると、中・高等学校においては、自分の考えをもとに発表したり意見を交流したりする学習活動の工夫が望まれます。

(2) 平和教育に関する取組（問2）

○ 各設問における選択率を校種別に表にした。

	幼稚園	小学校	中学校 中等教育学校	高等学校	特別支援学校
被爆体験を聴く会	100%	82%	53%	75%	—
平和を考える集い（集会）	26%	96%	56%	25%	—
平和記念資料館の見学	11%	82%	23%	38%	100%
本川小学校平和資料館・ 袋町小学校平和資料館の見学	5%	7%	3%	13%	—
平和記念公園の見学	53%	92%	19%	38%	100%
千羽鶴の作成	58%	93%	84%	38%	100%

【考察】

平和教育に関する取組については、各学校において、各学校の実態に応じて実施学年を決めるなど計画的に取り組んでいます。幼稚園においては、保護者とともに被爆体験を聴いたり、発達段階に応じて実施したりするなど工夫が見られました。特別支援学校においても、児童生徒の実態に応じた平和教育の取組を行っています。

小学校においては、平和を考える集いの実施は定着していると考えられます。また、小学校においては、被爆体験を聴いたり、見学したりする体験的な学習機会を大切にしていることがうかがえ、小学校教育が平和教育における大切な時期であり、その取組は充実しているといえます。

(3) 学校敷地内の被爆関連の施設等（問3）

各設問における選択率を校種別に表にした。

	幼稚園	小学校	中学校 中等教育学校	高等学校	特別支援学校
慰霊碑等	1園	15校	4校	1校	—
被爆建物やその一部	—	7校	3校	3校	—
被爆樹木	1園	85校	17校	2校	—

Ⅲ まとめとこれからの平和教育の展望

本調査の目的は、広島市の子どもたちの平和に関する意識実態や変化を把握し、被爆体験を原点とした広島市の平和教育を充実するための資料を得ることでした。今回、実施した調査等をもとに、今後の平和教育の充実に向けて以下のようにまとめを行いました。

1 発達段階に即した平和教育プログラムのさらなる充実

広島市の被爆年月日時等の「知識・理解」における正答率が上がったことについては、平成25年度から全校において実施している「平和教育プログラム」における、発達段階に即した平和教育の取り組みの成果だと考えます。

「学習経験」についての調査結果からは、平和教育の教材として「ひろしま平和ノート」、「平和記念資料館の資料」、「教科書」が多く用いられていること、「誰から教わったか」では、「学校の先生」の割合が多くを占めるということから、学校教育における平和教育の取組が児童生徒の平和意識の基盤となっていることがうかがえます。引き続き各学校における「平和教育プログラム」の計画的な実施や、各学校の地域の実態に応じた取組を継続させることが必要です。

一方、「広島市の被爆死者数」や「長崎市の被爆年月日時」「非核三原則の内容」などは、「広島市の被爆年月日時」と比較すると、正答率が低く、今後「平和教育プログラム」や各学校での取組の中で、理解の定着が図られるような工夫が求められます。

2 被爆者の体験と思いの継承

被爆70年を迎え、被爆体験者の高齢化はさらに進み、被爆の実相や地域の復興等を伝える地域の方々も少なくなってきました。被爆体験者の生の声を聴く最後の世代であるといわれる現在の児童生徒にとって、各学校において被爆体験を聴く時間を設定するということは、被爆体験の継承に大きな意味を持つこととなります。こうしたことから、各学校において計画的に「被爆体験を聴く会」等の取組を実施し、被爆体験と平和への思いが確実に継承できています。

「祖父母」「父母」の世代が原子爆弾や戦争のことについて子どもと会話する機会が少なくなってきた現在、これからは、被爆体験者の話と合わせて、被爆体験伝承者の活用や絵本の読み聞かせや被爆体験者の証言を映像化した平和教育アーカイブスなどの活用を促進するとともに、被爆者の体験と思いを継承する取組を引き続き工夫していく必要があります。

平和関連事業への継続的、積極的な実施状況は、各園・学校における取組の成果と考えています。引き続き、本市の事業との有機的な関連を図るために、発達段階に応じた学習活動等を行うことが必要です。

3 学習場面や指導方法

「関心・意欲」についての調査結果においては、「平和への思いを文や絵、音楽や劇などで表現する」をしてみたい割合が他の項目に比べて低かったことから、平和教育プログラムで学習したことをもとに、思いや考えを文章で書く、児童生徒同士で交流する、集会等を活用して音楽や劇などで表現するなど、指導の工夫が必要になります。

また、「学習場面の設定」の調査結果にあるように、「被爆体験を聴いたり、見学したりする学習」や「被爆の実相や復興を理解する学習」についての学習場面は全校種で高い割合を示しています。

一方、「平和についての自分の考えをまとめる学習」「平和についての自分の考えをもとに発表したり、意見を交流したりする学習」の選択率については校種間で取組に差が見られました。中・高等学校においては、自分の考えをまとめるだけでなく、考えを発表したり交流したりする学習場面の設定の工夫が望まれます。

4 家庭・地域及び社会教育等との連携強化

平和教育を一層充実させていくためには、各学校において、これまで取り組まれている計画的な平和学習と関連させ、参観日や平和集会などに家庭や地域の積極的な参加を求めたり、公民館や図書館、平和記念資料館の事業を活用したりするなど、これまで以上に家庭、地域、各関係機関との連携を図る必要があると考えます。

5 今後の取組

小学校第6学年は、「こどもピースサミット」に向けて平和への思いを作文に書き、表現しています。中学生は、「中学生による『伝える HIROSHIMA プロジェクト』」に取り組み、平和への思いを英語にして発信しました。「ひろしま子ども平和の集い」では、高校生が様々な表現方法で平和をアピールしています。このような継続的な取組における児童生徒の姿は、本市の目指す自主的・積極的に取り組む姿そのものであるといえます。

広島市は2020年（被爆75年）にむけて核兵器廃絶を目指す行動指針を示しています。被爆者が高齢化し、その数が減少している現在、次世代の担い手となる子どもたちへの平和教育の在り方を、本調査の結果や考察をもとに充実させていく必要があります。

今回は、意識から行動化へと関心・意欲を見取ってきましたが、さらに自発的に行動する力へと高めていくことが、本市の平和教育の目標に掲げる、「世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する」ことにつながるものと考えます。

今後、本調査の成果や課題をもとにして、各学校における平和教育の実践のさらなる充実を図るとともに、その成果を、地域はもとより国内外へと発信していくことへつなげていきたいと考えます。

IV 資料

資料 1 調査 I 「平和教育に関する調査」

小・中・高等学校共通

へいわきょういく かん ちょうさ
平和教育に関する調査

これは平和教育の充実のための調査です。回答は、調査以外には使用しません。
ご協力よろしくお願ひします。

ひづけ がっこうめい がくねん か
日付、学校名、学年を書いてください。

ちょうさ ひ
調査をした日 (平成 27 年 月 日)

がっこうめい
学校名 ()

がく ねん
学 年 () 年

広島市教育委員会

つぎ ぶん よ
次の文を読んで、質問に答えてください。

問1. いま ひろしまし どうか げんしばくだん げんぱく
今から広島市に投下された原子爆弾（原爆）についてお聞きします。

(1) ひろしまし げんしばくだん どうか なんねんなんがつなんにちなんじなんぶん
広島市に原子爆弾が投下されたのは何年何月何日何時何分ですか。知っているか、知らないか、あてはまる数字に○をつけ、知っている人は下の（ ）に書いてください。

1 知っている	2 知らない
() 年	
() 月 () 日	
() 時 () 分	

(2) ひろしまし どうか げんしばくだん な ひと かず とし がつまつ
広島市に投下された原子爆弾によって亡くなった人の数は、その年の12月末まで、およそ何人でしょうか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | |
|----------|---------|
| 1 1500人 | 2 3000人 |
| 3 3万人 | 4 7万人 |
| 5 14万人 | 6 25万人 |
| 7 30万人以上 | 8 知らない |

問2. いま ひろしましいがい どうか げんしばくだん
今から広島市以外に投下された原子爆弾についてお聞きします。

(1) あなたは、ひろしましいがい げんしばくだん どうか し
あなたは、広島市以外に原子爆弾が投下されたことを知っていますか。
つぎ
次のうちあてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 知っている | →(2)に進んでください。 |
| 2 聞いたことはあるが詳しくは知らない | →(2)に進んでください。 |
| 3 知らない | →問3に進んでください。 |

(2) (1)で、1・2に○をした人に聞きます。

どこの都市に投下されたか、次の中からあてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | |
|--------|---------------|
| 1 札幌市 | 2 仙台市 |
| 3 名古屋市 | 4 京都市 |
| 5 東京都 | 6 長崎市 |
| 7 沖縄市 | 8 どこの都市かは知らない |

(3) (2)の都市に原子爆弾が投下されたのは何年何月何日何時何分ですか。知っているか、知らないか、あてはまる数字に○をつけ、知っている人は下の()に書いてください。

1 知っている	2 知らない
()年	
()月()日	
()時()分	

問3. 今から「非核三原則」の内容についてお聞きします。

(1) 日本が、世界でただ一つの被爆国として決めている、非核三原則の内容について、あなたは知っていますか。次のうちあてはまる数字1つに○をつけてください。

- 1 知っている →(2)に進んでください。
- 2 聞いたことはあるが詳しくは知らない →(2)に進んでください。
- 3 知らない →問4に進んでください

(2) (1)で、1・2に○をした人に聞きます。非核三原則の内容について正しいものはどれですか。次のあてはまる数字1つに○をつけてください。

- 1 核兵器を「つくり、使わず、持たず」
- 2 核兵器を「つくり、持ち込ませず、頼らず」
- 3 核兵器を「持たず、つくり、持ち込ませず」
- 4 核兵器を「持たず、頼らず、つくり」
- 5 核兵器を「持たず、使わず、持ち込ませず」
- 6 内容はわからない

問4. 今から広島市に投下された原子爆弾について、どのようにして教わったのかをお聞きします。

(1) あなたは、広島市に投下された原子爆弾や戦争のことについて、誰から教わりましたか。

次のあてはまる数字全てに○をつけてください。

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 おじいさんやおばあさん | 2 お父さんやお母さん |
| 3 しんせきの人 | 4 お兄さんやお姉さん |
| 5 被爆体験者 | 6 学校の先生 |
| 7 その他 () | |

(2) あなたは、^{げんしばくだん}原子爆弾や^{せんそう}戦争のことについて、^{なに}何から^み見たり^き聞いたりしましたか。
 つぎのあてはまる^{すうじすべ}数字全てに○をつけてください。

- | | | | |
|----|------------------------------------|----|------------------------------------------------------------|
| 1 | ^{へいわきねんしりょうかん} 平和記念資料館の資料 | 2 | ^{げんばく} 原爆の ^{いれいひ} 慰霊碑 |
| 3 | ^{きょうかしよ} 教科書 | 4 | ^{しゃかい} 社会科副読本「わたしたちの ^{ひろしまし} 広島市」 |
| 5 | 「 ^{へいわ} ひろしま平和ノート」 | 6 | ^{せんせい} 先生が ^{はいふ} 配布した ^{しりょう} 資料 |
| 7 | ^{ついでうへいわきねんかん} 追悼平和祈念館の資料 | 8 | テレビ |
| 9 | ^{ざっし} 雑誌 | 10 | ^{ほん} 本 |
| 11 | ^{えほん} 絵本 | 12 | ^{しんぶん} 新聞 |
| 13 | ^{えいが} 映画 | 14 | インターネット |
| 15 | ^{かみしばい} 紙芝居 | 16 | その他 () |

(3) あなたは、^{げんしばくだん}原子爆弾や^{せんそう}戦争にかかわる^{しせつ}施設を見学したり、^{けんがく}その^{ばしょ}場所に行ったりしたことがありますか。つぎのあてはまる^{すうじすべ}数字全てに○をつけてください。

- | | | | |
|----|---------------------------------------------------|----|---------------------------------------------|
| 1 | ^{へいわきねんしりょうかん} 平和記念資料館 | 2 | ^{げんばく} 原爆ドーム |
| 3 | ^{ほんかわしょうがっこうへいわしりょうかん} 本川小学校平和資料館 | 4 | ^{ふくろまちしょうがっこうへいわしりょうかん} 袋町小学校平和資料館 |
| 5 | ^{へいわきねんこうえん} 平和記念公園の ^{いれいひ} 慰霊碑 | 6 | ^{げんばくびょういん} 原爆病院 |
| 7 | ^{げんばくようこ} 原爆養護ホーム | 8 | ^{ちいき} 地域の ^{いれいひ} 慰霊碑 |
| 9 | ^{きょうどしりょうかん} 郷土資料館 | 10 | ^{ついでうへいわきねんかん} 追悼平和祈念館 |
| 11 | その他 () | | |

問5. ^{いま}今から、^{へいわ}平和な^{しゃかい}社会をつくっていくために^{たいせつ}大切だと思ふことや^{おも}してみたいことについて、お聞きします。

^{へいわ}平和な^{しゃかい}社会をつくっていくために、①～⑮のことは、どのくらい^{たいせつ}大切だと思ひますか。また、そのために^{じぶん}自分が^{おも}できることをどのくらい^{おも}してみたいと思ひますか。それぞれのことについて、1～4の^{なか}中で、^{すうじ}もっともあてはまる数字1つに○をつけてください。

どのくらい大切か	どのくらいしてみたいか
大切だと思ふ	してみたいと思ふ
まあまあ大切だと思ふ	まあまあしてみたいと思ふ
あまり大切だと思ふ	あまりしてみたいと思ふ
大切だと思わない	してみたいと思わない

(れい) ^{はや}早ね^{はやお}早起きをする

④ 3 2 1 4 ③ 2 1

	どのくらい大切か				どのくらいしてみたいか			
	大切だと思う	まあまあ大切だと思う	あまり大切だとは思わない	大切だとは思わない	してみたいと思う	まあまあしてみたいと思う	あまりしてみたいとは思わない	してみたいとは思わない
①戦争や原子爆弾についてもっと学習する。	4	3	2	1	4	3	2	1
②日本だけでなく世界の国について学習する。	4	3	2	1	4	3	2	1
③被爆体験者などの話をもっと聴く。	4	3	2	1	4	3	2	1
④平和記念公園などに行き行って祈ったり、平和への思いを持ったりする。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑤原子爆弾のおそろしさや被害の様子を人々に伝える。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑥平和への思いを文や絵、音楽や劇などで伝える。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑦まわりの人や友達となかよくし、助け合う。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑧人を差別したりいじめたりしない。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑨差別やいじめを受けている人を助ける。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑩自分や人、生きものの命を大切にする。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑪他の国の人たちとなかよくし、助け合う。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑫人々が安心して生活できる社会をつくる。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑬原子爆弾など核兵器のない世界をつくる。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑭戦争のない世界をつくる。	4	3	2	1	4	3	2	1
⑮貧しさや飢えのない平等な社会をつくる。	4	3	2	1	4	3	2	1

問6. あなたは、^{へいわがくしゅう} ^{とお} 平和学習を通して、^し どのようなことを知ったり、^{かんが} 考えたりしましたか。
^{つぎ} 次のあてはまる^{すうじすべ} 数字全てに○をつけてください。

- 1 ^{げんしぼくだん} ^{ひがい} 原子爆弾の被害や^{ようす} その様子について。
- 2 ^{げんしぼくだん} 原子爆弾は、^{たいせつ} ^{もの} ^{うば} 大切な物を奪ってしまうということ
- 3 ^{しょくぶつ} ^{いのち} 植物にも命があり、^{たいせつ} ^{おも} 大切にしようと思うこと。
- 4 ^{せんそうちゆう} ^こ 戦争中の子どもたちの^{せいかつ} 生活や、^{かぞく} ^ひ 家族と引きはなされる^{かな} 悲しさ。
- 5 ^{へいわ} ^{ねが} 平和への願いが^こ 込められた^{ぎやうじ} 行事があること。
- 6 ^{せんそう} ^{おそ} 戦争の恐ろしさを^{つた} 伝えていこうとする^{ひとびと} ^{おも} 人々の思い。
- 7 ^{ひばくご} ^{ひとびと} 被爆後の人々の^{くろう} 苦勞や^{ねが} 願い。
- 8 ^{ふっこう} ^{ひとびと} 復興へつくした人々の^{ねが} 願い。
- 9 ^{へいわ} 平和なまちづくりについて。
- 10 ^{せかい} ^{くにくに} ^{ひとびと} 世界の国々や人々とのつながり。
- 11 ^{へいわ} 平和について^{じぶん} 自分ができること。
- 12 ^た ^{じゆう} ^か その他・自由に書いてください

おつかれさまでした。^{さいご} 最後に、^か ^{わす} 書き忘れはないか、^{いちど} もう一度たしかめてください。

資料2 調査II「学校における取組の状況調査」

学校における取組の状況調査

問1 平和教育の実施に当たり、どのような学習場面を設定しましたか。各学年、該当するものすべてを選んでください。(本年度末までの予定を含む)

- 1 被爆体験を聴いたり、見学したりする学習
- 2 被爆の実相や復興を理解する学習
- 3 平和についての自分の考えをまとめる学習
- 4 平和についての自分の考えをもとに発表したり、意見を交流したりする学習
- 5 その他(内容を記入してください)

問2 次の平和教育に関する取組を実施しましたか。該当するものすべてを選び、実施学年と実施月を記入してください。(本年度末までの予定を含む)

- 1 被爆体験を聴く会
- 2 平和を考える集い(集会)
- 3 平和記念資料館の見学
- 4 本川小学校平和資料館・袋町小学校平和資料館の見学
- 5 平和記念公園の見学
- 6 千羽鶴の作成
- 7 その他、学校独自の取組(内容を記入してください)

問3 学校敷地内に被爆関連の施設等(慰霊碑、記念碑、被爆建物やその一部など)がありますか。該当するものすべてを選んでください。

- 1 慰霊碑等
- 2 被爆建物やその一部
- 3 被爆樹木

調査協力校一覧

【調査Ⅰ】「平和教育に関する調査」

<小学校>

基町小学校、幟町小学校、中島小学校、戸坂小学校、早稲田小学校、矢賀小学校、
比治山小学校、大河小学校、仁保小学校、南観音小学校、己斐東小学校、古田台小学校、
川内小学校、安東小学校、伴南小学校、狩小川小学校、口田小学校、三入東小学校、
中野小学校、船越小学校、矢野南小学校、五日市東小学校、五日市南小学校、藤の木小学校

<中学校>

吉島中学校、国泰寺中学校、戸坂中学校、早稲田中学校、段原中学校、楠那中学校
中広中学校、古田中学校、東原中学校、大塚中学校、可部中学校、口田中学校
船越中学校、瀬野川東中学校、美鈴が丘中学校、湯来中学校

<高等学校>

基町高等学校、舟入高等学校、広島商業高等学校、広島工業高等学校
大手町商業校等学校、安佐北高等学校、沼田高等学校、美鈴が丘高等学校

【調査Ⅱ】「学校におけ取組の状況調査」

全市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校、広島中等教育学校、広島特別支援学校

【表紙絵】

タイトル「みんなでバルーンをしたのしかったよ」

広島市立福木幼稚園 ふじ組 だいとう あきと

登 録 番 号	広X3-2015-569
名 称	調査報告書 平和に関する意識実態調査 広島市教育委員会
主 管 課 所 在 地	広島市教育委員会学校教育部指導第一課 指導第二課 広島市中区国泰寺町一丁目4番21号 (〒730-8586) TEL 082-504-2486
発 行 年 月	平成28年3月
印 刷 会 社	鯉城印刷株式会社